

遅咲きの「二刀流」が王座奪取



第50回スプリンターズステークス(GI) 優勝馬 レッドファルクス



高松宮記念の覇者ビッグアーサーが、春秋スプリントGI制覇をかけて臨んできた一戦。しかしレースは、春の王者にとってこれ以上ないほど苦しいものとなった。

ビッグアーサーは、秋の始動戦であるセントウルステークスを完璧な逃げ切り勝ち。単勝1.8倍の断然人気に推されていたが、最内の1番枠が決まった時点で「これは難しい競馬になると思った」という福永祐一騎手の悪い予感が的中してしまう。本来は逃げ馬ではなく、先行抜け出しが得意なスタイルということもあり、ミッキーアイルやソルヴェイグを先に行かせて先団のインでレースを進めた福永騎手とビッグアーサーだったが、この日はなかなか折り合いがつかない。3コーナー過ぎによりやく落ち着くが、今度は直線に入っても馬群に包まれたままで、進路がない。いったん外へ出そうとするも、内のスペースを見つけて首をそちらに向けた途端、他馬と接触し、躓いて下がる不利。福永騎手も悔やむ不完全燃焼の走りで、12着に沈んでしまった。



▲中団にいたレッドファルクス(帽色・橙)は、外から位置を押し上げて直線に向かう。

苦しむビッグアーサーを尻目に、直線では逃げたミッキーアイルが先頭を守り続ける。直後から迫るソルヴェイグとシュウジ。そんな激しい攻防

をまとめて交わすように、外から猛然と追い込んできたのがレッドファルクスだった。道中は中団の外を追走、4コーナー手前からまくって出ていったレッドファルクスは、ミルコ・デムーロ騎手のアクションに応じてぐんぐん伸びた。坂を上がり、粘るミッキーアイルをアタマ差捉えたところがゴール。11着までが0秒3差、最下位まででも0秒7差という稀に見る大激戦を制したのだった。

ここまで芝で3勝、ダートで4勝と「二刀流」で歩んできたレッドファルクス。出世は遅れたが徐々に力をつけていき、7月のCBC賞で重賞ウイナーの仲間入り。5歳秋にしてこれがGI初挑戦で、いきなり頂点を極めた。尾関知人調教師は、開業8年目でのGI初制覇。記者会見ではこれまでの苦労を思い出して感極まり、言葉に詰まる場面も。馬も人も、フレッシュなチャンピオンが誕生した秋のGI開幕戦となった。



▲スウェプトオーヴァーボード産駒初のGI馬となったレッドファルクス。

第50回スプリンターズステークス(GI)

10/2 中山競馬場 1200m(芝・右・外) 晴・良 16頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	レッドファルクス	牡	5	57	M. デムーロ	尾関 知人	1:07.6	③	⑨⑦
2	ミッキーアイル	牡	5	57	松山 弘平	音無 秀孝	アタマ	②	①①①
3	ソルヴェイグ	牝	3	53	田辺 裕信	鮫島 一歩	クビ	⑨	②④
4	シュウジ	牡	3	55	川田 将雅	須貝 尚介	クビ	⑤	②②
5	スノードラゴン	牡	8	57	大野 拓弥	高木 登	ハナ	⑫	⑩⑩
6	ネロ	牡	5	57	内田 博幸	森 秀行	アタマ	⑧	②②
7	サトノルパン	牡	5	57	和田 竜二	村山 明	クビ	⑭	⑤⑤
8	ティーパーフ	牡	6	57	池添 謙一	西浦 勝一	ハナ	⑯	⑫⑪
9	レッツゴードンキ	牝	4	55	岩田 康誠	梅田 智之	クビ	⑦	⑮⑬
10	ベルカント	牝	5	55	蛸名 正義	角田 晃一	クビ	⑪	⑦⑧
11	プランボヌール	牝	3	53	武 豊	中竹 和也	クビ	⑥	⑦⑧
12	ビッグアーサー	牡	5	57	福永 祐一	藤岡 健一	1/2	①	⑤⑤
13	ウリウリ	牝	6	55	戸崎 圭太	藤原 英昭	アタマ	⑩	⑮⑮
14	レッドアリオン	牡	6	57	川須 栄彦	橋口 慎介	クビ	⑮	⑬⑬
15	ダンスディレクター	牡	6	57	浜中 俊	笹田 和秀	アタマ	④	⑬⑮
16	サクラゴスベル	牡	8	57	横山 典弘	尾関 知人	1 1/4	⑬	⑪⑫

単勝 ⑨20円 複勝 ③380円 ⑤290円 ④740円 枠連(7-8)2,000円
馬連 ⑬-⑮4,490円 馬単 ⑬-⑮8,240円 ワイド ⑬-⑮1,470円 ④-⑬3,470円 ④-⑮3,450円
3連複 ④-⑬-⑮42,230円 3連単 ⑬-⑮-④180,060円

ハロンタイム 11.8-10.5-11.1-11.2-11.2-11.8
通過タイム 600m ③33.4-800m ④44.6-1000m ⑤55.8

優勝馬 レッドファルクス

2011.4.12生 父スウェプトオーヴァーボード 母ベルモット 母の父サンデーサイレンス
千歳・社台ファーム生産 馬主:(株)東京ホースレーシング